

## ◇ 令和6年 所得税の調査の概要

**Q** : 令和6年の所得税の調査の概要が公表されたそうですが、どのような内容でしたか？

**A** : 次のような内容になっています。

### 【解説】

国税庁が公表した令和6事務年度の所得税の調査状況によると、AIを活用した効率的な調査により、追徴税額は過去最高となりました。調査は「実地調査」と「簡易な接触」の2種類があり、いずれも非違件数が増加しています。

まず、実地調査と簡易な接触を合わせた調査件数は73万6千件（前年60万5千件）。このうち、申告漏れなどの非違があったのは36万9千件と半数を占めています。実地調査だけでも4万7千件実施されました。

また、申告漏れ所得金額は合計9,917億円（前年9,964億円）と減少しました。実地調査に限定すると5,411億円、簡易な接触では3,502億円となっています。

次に、追徴税額（加算税を含む）は1,431億円（前年1,398億円）で過去最高を更新しました。実地調査に基づく追徴税額は1,132億円、簡易な接触では299億円。実地調査1件あたりの追徴税額は241万円と、前年の224万円から上昇しています。

国税庁はAIを活用して不正の可能性が高い案件を抽出し、調査の精度を高めているとしています。これにより、無申告や悪質な所得隠しへの対応が一層強化されたことが伺えます。

